

[話題提供名] アーボリスト®が実施するカワウ卵へのオイリング処理による繁殖抑制

[要約]カワウコロニーにおいて、アーボリスト®による流動パラフィンを用いた繁殖抑制方法の導入を検討した。パラフィンへの着色等によって確実に卵に噴霧できれば雛は孵化しないため、本手法はドライアイス等と同様にカワウの繁殖抑制に使用可能である。

[担当]山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・三浦正之

[分類]技術・普及

[課題の要請元] 食糧花き水産課、峡東漁業協同組合、河口湖漁業協同組合

[背景・ねらい]

山梨県では2004年からカワウの営巣地（コロニー）を一箇所封じ込め、ここでカワウの卵に対して擬卵への置き換えやドライアイスの散布を行うことで雛の孵化を大幅に抑制している（繁殖抑制）。この取り組みにより、新たなカワウ個体の加入が最小限に抑えられており、実際に本県でのカワウの個体数は低く推移している。今回は、繁殖抑制作業の効率化を図るための新たな手法として、アーボリスト®（樹護士：樹上作業の専門家）との協働による流動パラフィンを用いた繁殖抑制方法を検討した。

[成果の内容・特徴]

1. これまでに岐阜県水産研究所によって鶏卵に対する雛の孵化抑制効果が確認されている流動パラフィン（ハイコール K-160、食品添加物規格、非水溶性）について、本県カワウコロニーでの繁殖抑制作業への本格導入を検討した。
2. 流動パラフィンは無色透明であるため、卵に対して確実に噴霧できたかどうかの判別が難しいという課題があるが、チョコ用の色素（ダイワ化成チョコ用カラー青）を1%濃度で流動パラフィンに溶解することで、卵への噴霧確認が可能となる（写真1）。
3. 流動パラフィンはアーボリスト®が噴霧器（写真2：ノズルは最長で2m）を背負い樹上でカワウの卵に噴霧する（写真3）。
4. カワウを一元管理している高部コロニー（山梨県中央市高部地先河川敷）の1本の樹木を試験樹木として設定し、延べ5日間、カワウ卵が確認された全巣の卵に対して毎回流動パラフィンの噴霧処理を行ったところ、雛の孵化は確認されなかった（図1）。
5. 流動パラフィン噴霧はアーボリスト等樹上作業の専門家によって適切に実施できれば、擬卵への置き換えやドライアイス散布と同等以上にカワウの繁殖抑制に使用可能である。

[成果の活用上の留意点]

流動パラフィンよりも自然環境で分解されやすい植物油の使用も検討する必要がある。

[期待される効果]

従来よりも労力を軽減し、安全な形でカワウの個体数管理が可能となる。

[具体的データ]

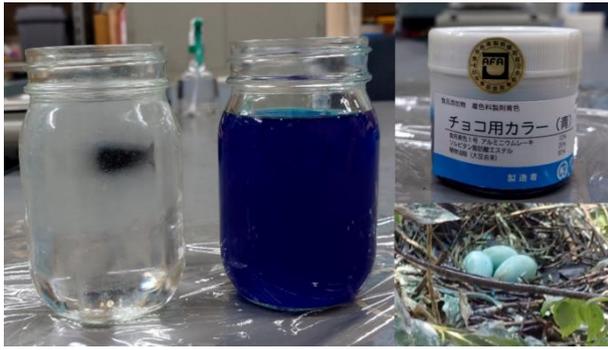


写真1 チョコ用青色色素の流動パラフィンへの混合及びカワウ卵への噴霧直後の写真



写真3 樹上で作業するアーボリスト® (矢印)



写真2 卵への噴霧に用いた噴霧器

処理日	処理巣数	処理卵数
2025-04-21	7	23
2025-05-09	13	43
2025-05-28	25	61
2025-06-16	22	51
2025-07-11	21	60

毎回試験樹木の卵が確認された巣に対して全巣に処理



繁殖期中の雛の孵化ゼロ



図1 着色流動パラフィンによる繁殖抑制試験の実施状況及び結果
※カワウコロニーを一元管理している山梨県中央市の高部コロニーにおいて実施

[その他]

研究課題名：魚食性鳥類対策の効率化（業務的課題）

予算区分：県単

研究期間：2024年度～2025年度

研究担当者：三浦正之、谷沢弘将